



ネイチャーなら

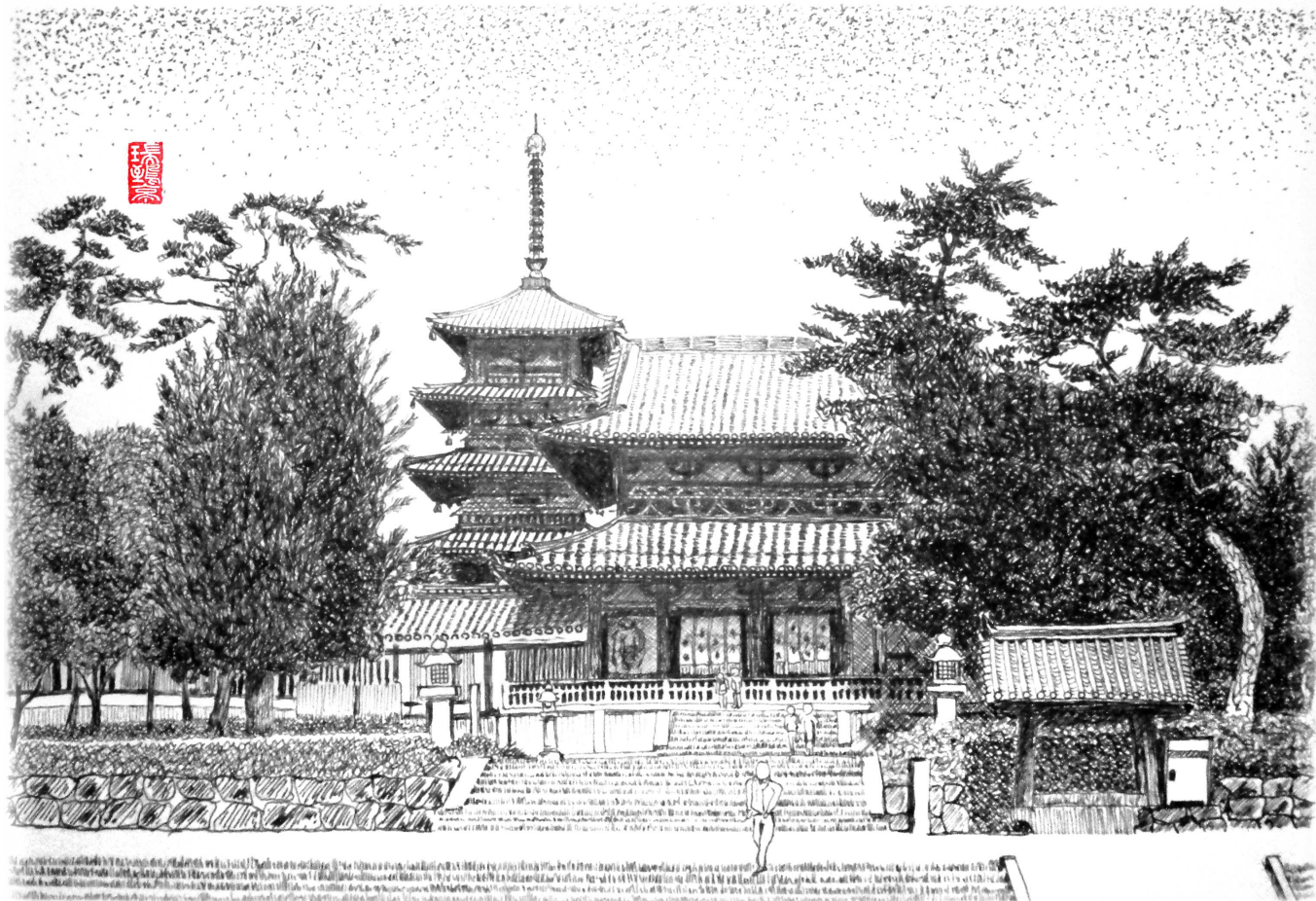
《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2013年9月1日

9月号・第140号

奈良・人と自然の会

会長 藤田 秀 憲



Contents

§ § § § §

多士済々.....	①	仲間入りしました.....	⑫
ならやま景観整備について.....	②	鎮魂の廃寺を訪れて.....	⑬
Monthly Repo.ならやま.....	③	俳句百景.....	⑭
里山の今.....	④⑤	癒しの散歩道 & ならやま茶論.....	⑮
「山と森林の月間」協賛イベント・その1....	⑥	Galleryならやま.....	⑯
8月例会報告.....	⑦	ならやまの歌.....	⑰
ならやま昆虫観察会.....	⑧	ならやま景観整備.....	⑱
やさしい昆虫講座③⑥.....	⑨	行事案内Ⅰ.....	⑲
青垣春秋.....	⑩⑪	行事案内Ⅱ & 奈良学クイズ.....	⑳
	⑫	幹事会報告・ペン画に寄せて・編集後記...	㉑

ササ群落との格闘

多士崎

中畑 進さん

顧問 阿部 和生

ここしばらく体調を崩されているようで、お見かけしませんが「ならやま景観整備・ササとの格闘」における中畑さんの獅子奮迅のご活躍は、皆様もよくご存知のことでしょう。中畑さんは、多聞城跡の近くで生を受けられた奈良育ちの知識人で、職を離れられた後「奈良・人と自然の会」に入会されました。そのころ社会貢献事業として取り組みかけた奈良市忍辱山町「国有林の間伐整備作業」で、ご一緒に活動した事が始まりです。その頃から既に持病を持ちつつも「山作業は素晴らしい!!」と作業と体調のバランスを図りながら「生活の質」の維持・向上を心がけての活躍でした。

平成19年より始まった「ならやま景観整備事業」は、放置「田・畑」の復活が、喫緊の課題、積年の放置により一帯は強固なササ群落となっていて、大変困難な作業となりました。密生して長く(3m~4m)先端には、ノイバラやクズ、フジ等が絡まっています。既に灌木類はほとんど枯死している状態で、おまけに不法投棄物が投げ捨てられているといった一筋縄で行かない現状でした。刈り払い機の替え刃は、草刈用では役に立たず森林作業用チップソーを使ったものです。中畑さんは、早速自前の仮払い機を持ち込み、活動日以外にも、体調を整え朝の涼しい時間、ある時は午前中と一人黙々と取り組んでササ群落整備の進捗を図られたのです。気を付けていないと燃料の混合油が、不足してしまう程でした。

本来は、里山林の間伐整備を希望しておられたのですが「刈り取り必要なところは指図

してね」といつも声をかけて頂き、それ以降も甘えたものでした。3年次に亘る1期のササの刈り取りは、中畑さんの尽力が大きな原動力でした。その後もひき続き「彩りの森」「佐保自然の森」と活動の場を広げて今日に至っています。

昨年10月から取り組みかけた「第5地区のササ刈り」作業は、これまでの作業工程を思い起こさせました。中畑さんお得意の“QOL”を図られ、その後のならやまの変貌を是非見に来て下さる事を願っています。

▼人工林間伐 休憩の合間に



▼忍辱山国有林 森林間伐体験会での指導



ならやま景観整備について

ならやま景観整備は今年で7年目になりました。当初10数名の会員で6.4haの県有地に取り組み、現在では毎回50～60名が、約20haの管理地の整備に当たっています。活動中の皆さんから「何のために」「どうしようとしているのか」等問われることがあり、これまでの経緯と現在の活動を纏めてみました。

1. 景観整備活動取組への経緯

当会設立から6年目の2007年3月、黒髪山キャンプフィールドの隣接地で、古都保存法に基づき奈良県が買収した物件の管理活動に応募しました。山林の間伐、原野の草刈等、現状凍結保存の趣旨に沿った管理作業が求められ、現状を変更しない範囲での利用は自由で、契約期間は2年間と言うものでした。当会のベースフィールドとして適当と判断し、社会貢献事業の一つとして取組むことを決定し、4月に県の許可を得て、当会は「ならやまプロジェクト」として取り組みを開始しました。

2. 現在までの整備活動

(1) 07年4月、県より「行政財産使用許可書」で借用した6.4haの「ならやま里山林」がこの活動の原点です。ここにベースキャンプを作り、放棄されていた畑、水田を復元し、荒れた里山林の基礎整備に取り組み、6年を掛け徐々に現在の姿に至ったものです。

(2) 参加者が増え、県からの受託地が倍増し、活動内容も多様化する中、11年には「ならやま3つの計画について」を策定し、整備事業内容を明確にして周知を図りました。この計画をベースに、毎年見直し、活動実行計画を策定しながら推進しています。

[3つの計画資料は事務局に請求してください]

(A)「ならやま里山林」再生計画

ならやま全体のナラ枯れ問題に対応し2つのテーマ（ナラ枯れ調査と萌芽更新試験）に協力しながら、健康な森づくりを進める。

(B)「佐保自然の森」植樹計画

地域の方との連携を大切にして年中、花が咲き、実がなり、昆虫や鳥たちが生活できる生物

多様性豊かな森づくり

(C)「ならやま彩りの森」植樹計画

ヤマザクラとカエデ類でならやま谷部を春秋の季節に美しい彩りを添える景観づくり

(3) 第5番目の受託エリア「第五地区(仮称)」は、宅地開発放棄地で2haあり、その整備に12年より3ヶ年計画で臨んでいます。1年目の整備地には、梅林、橘などの植樹、中央部にはソバ等の栽培を検討しています。2年目は竹林を、3年目は松林を中心とした整備に取り組みます。

(4)「ならやま自然の森」は人の手を入れず自然状態のままです。観察路のみは整備して、植生調査やナラ枯れ被害調査を行っています。

(5) ならやま里山林を構成している復活した畑・水田は、より多くの人を楽しんで支える農園経営を進めています。安全・安心野菜の栽培と有機農法の研修と実践です。

3. ならやま景観整備の方向付け

私達が見ている「ならやま」と呼ぶ地域は約40ha位あるのでしょうか。県からの使用許可地は約20haで、活動の手が入っているのはその半分の約10ha位のものでしょうか。ならやま全体と各活動エリアの調和を図りながら、現在のならやま景観整備の方向付けは：

- ①「自然の持つ多様な魅力に、多くの人が集まり、支える里山づくり」(11年ならやまプロジェクト)
- ②「多様な動植物の生息する空間で、人が自然との共生を体感できる現代に生きた里山を再生する方向で進める」(13年第五地区の取り組み)ことといえます。

4. ならやま景観整備の今後

多くの会員の参加やイベント等により外部の方の受入も頻繁になってきました。私たちはこのならやまをどうしていくのか、衆知を集めさらに検討を加えて取り組んでいきたいと思ひます。

多士済々の当会です。熱心に語り合い、活動に取り組みながら、ならやま景観整備のバージョンアップを図っていきましょう。

みなさまのご意見をお寄せください。

(ならやま委員会事務局：塩本勝也)

Monthly Repo.ならやま

◆7月25日(木) 晴れ 57名+4名

朝30分間、ベースキャンプ周辺を中心に彩りの森から高架下までの自転車道、ならやま会館前などで、一斉ゴミ拾いを実施。タイヤなど不法投棄ゴミが大量に集まった。

ならやま里山林のコナラについて、カシナガの被害木の調査を行うとともに、トラップによる成虫の捕獲調査も実施。

水田、サトイモ畑、山野草の除草、アジサイの剪定など、仕事は目白押し。

27日のイベントに向け、工作材料・バームクーヘン作りの準備を終えるとともに当日の関係者の役割分担の確認。

午後、県の坂野係長がカシナガの被害の現況を見にこられ、今後の対策について意見交換を行った。



《佐保自然の森のフラワーロードで花盛り》

◆7月27日(土) 晴れ イベント

33名+56名

大勢の会員の協力のもとに、県の山と森林の月間行事の一環として、「昆虫観察、バームクーヘン作り、自然工作」のイベントを実施。参加者からの評価は非常に良かった。

◆8月1日(木) 曇り一時雨 48名

10時頃から約30分間、雷をとまなう激しい雨があり、みんなずぶ濡れになった。

第5地区の竹の伐採、笹刈りの実施。ならやま里山林でのカシナガ被害木調査。ならやま池での生物調査、彩の森の除草、サツマイモの除草、ハヤトウリの棚作りなど、雨の中の作業となった。

ナス、ピーマン、トウガラシ類は予想以上に生育が順調で、綺麗な実がいっぱい。

◆8月7日(水) 晴れ 16名+2名

自然教室チームの会員向け初めての昆虫観察会。お孫さんも2名参加。みなさん子供時代に戻っていただき、バッタ、チョウ、トンボなどを追い回し、昆虫に理解を深めてもらった。

◆8月8日(木) 晴れ 50名

第5地区の整備に重点をおき、大半の人員をさいた。竹の伐採、つる草の除去、整備開始後に生え茂った草の刈り取り、トラクターによる土の掘り起こしなどを行い、ソバの播種ができるように整備した。

農園では沢山の実を提供してくれたナスも剪定し、夏休みをとってもらった。



《トウガン・カボチャが豊作》

◆8月22日(木) 晴れ 65名+2名

24日のイベントに向け、子供たちが里山散策を安全に楽しんでもらうため、危険なウルシの除去、自然遊具の整備を重点的に行った。

ソバクラブメンバーが総出でソバの種まきを実施。
(木村 裕)

里山の今

ならやま花だより

山中 笙子

8月8日(木)里山は雷雨で水を得た草が作物や花を覆うほどに伸び草刈りに追われています。

自転車道脇につる植物のガガイモが自生していました。葉の腋から花柄を出しその先に1cm位の内側が桃色の花を咲かせ白い毛が密生。雄しべと雌しべはくっつき長い柱頭が突き出て、愛らしい花です。蜜があるのか蟻が数匹いました。以前、緑色のオクラの形をした実を何だろうと持ち帰り、茶色くなった頃に裂くと、光沢のある絹糸みたいな長くて白い毛の付いた種が詰まっていますとても綺麗でした。種には翼があり風に飛ぶのに都合良いのでしょうか。蔓や葉を切ると乳液が出ます。古事記では大国主命の国造りの折、スクナビコナの神(少彦名神)がガガイモの実の鞘の舟に乗ってやって来たとあり古くからある植物なんですね。ガガイモのガガ(亀の甲羅)は葉の形が、イモは果実の形が芋に似ている所から付いた名です。



▲ガガイモ ▲ 袋果 ▲ 種

【草花】ヒマワリ、アキノタムラソウ、コマツナギ、ヤブラン、スベリヒユ、ベニバナボロギク、マツヨイグサ、コニシキソウ、ヤマノイモ、タカサブロウ、ガガイモ、コアカザ、イヌビユ、カヤツリグサ、ハス、ヌマトラノオ

【木の花】ヌルデ、ナツフジ、コシアブラ(蕾)エンジュ(花と実)、ムラサキシキブ

【木の実】カキノキ、オニグルミ、アケビ、ミツバアケビ、サワフタギ、ナツハゼ、ウスノキ、タカノツメ、シバグリ、

【花壇】モミジアオイ、ヒメヒオウギ、オミナエシ、ハナトラノオ

* ペタキン日記 ⑧ *

羽尻 嵩

昨年9月から実施してきた水質調査の結果から見えた課題についてお知らせします。

調査日時は月初めの午前中で、調査個所は調査順に東池横の側溝、東池、タナゴ池、ならやま池です(ただし東池は必要に応じて行う)。

調査項目は、水温・透視度・pHの測定とバックテスによる水中の有機物(CODによる)と窒素化合物〔アンモニア性窒素・亜硝酸性窒素・硝酸性窒素〕とリン酸性リンの含有量です。

1年間を通して、窒素とリン酸の含有量とpHについて問題は見られなかったが、水温、透視度、化学的酸素要求量〔COD〕で問題点が見られた。以下、その3点について意見を述べたいと思います。今回は、水温について、

1. 水温

東西約9m、南北約13mの「ならやま池」は入水量が少なく、水深が浅くなると水温が気温に影響され大きく変動する。

<2012年9月2日8:30~10:30>

晴後薄曇り、

気温27~30℃、側溝...23℃、東池...26℃

(入水なし)

タナゴ池...25℃、ならやま池...28℃

<2013年1月4日8:30~9:30>

晴、気温-0.1℃~3℃、側溝...2℃、

タナゴ池(保護池)...4℃、ならやま池...3℃

<2013年8月1日10:45~11:30>

にわか雨後晴、気温29℃~31℃、側溝...24℃、

タナゴ池...24℃、ならやま池...25℃

水生生物は、水温が低くても水が凍らなければ死滅することはないが、水温が30℃近くになると死滅の危険性が高くなる。ならやま池は入水量が少ない中で、昨年度は水深を意図的に下げた(平均水深約20cm)、夏の昼間の水温が上昇し(ぬるま湯のような感触)、水生生物の生息環境としてはふさわしくなかった。本年度は水深を上げたため(平均水深約30cm)、水温の上昇は抑えられ、現在はアオミドロの繁茂も減少している。(次回につづく)



夫婦で子供を育てる昆虫

菊川 年明

ならやまパトロール報告

守口 京子

夏の日、ベースキャンプの北側の草むらに落とし穴式のトラップを仕掛けると、普段はあまり目につかない昆虫がかかる。落ち葉の下や草むらに潜んでいる昆虫たちである。トラップは紙コップに腐肉などを入れて土中に埋め、口は地面と水平にしておくのである。すると、ムシたちは食べ物の匂いに誘われて集まってきて、紙コップの罠にはまる。

このようなトラップにかかる昆虫はゴミムシやシデムシの仲間が多い。動物の死骸や腐敗物などを食べているムシたちである。

ゴミムシには「ヘッピリムシ」として知られるミイデラゴミムシ(写真1)もよくかかっている。ヘッピリムシという名前は「屁ひり虫」のなまったものである。このムシは捕まえたり、つついたりすると尻から音を立てて、黄色っぽい高温のガスを射出する。ガスの温度は100度近くもあり、指に触れると火傷のようになることがあるとか、ガスの放射を受けたところは黄色くなって、なかなか落ちないとか言われており、なかなか手強いムシである。

シデムシの仲間ではオオヒラタシデムシ、ヨツボシモンシデムシ、大きなクロシデムシなどがよくかかる。多いのはオオヒラタシデムシである。ヨツボシモンシデムシとクロシデムシは昆虫でありながら夫婦で子育てをするという珍しい習性を持ち、幼虫に給餌の世話をするそうである。クロシデムシのオスの子育ては途中までらしいが、ヨツボシモンシデムシ(写真2)は最後まで夫婦で子育てをするとのことである。



ミイデラゴミムシ
(写真1)



ヨツボシモンシデムシ
(写真2)

4つのパトロールコースの内、前回までで3つの説明が終わり、今回は最後の4コース(北壁コース)の紹介です。このコースは急斜面の上り下りを含みスリルに富み、まるで深山かのような趣の感じられるコースです。

入口は東池から左へ進み、皆伐地区の左端⑭です。ここには希少植物保護のため立ち入り禁止になっているところがあります。足元の植物とロープに気を付けて行ってください。冷んやりとして、木漏れ日の気持ちのいい所で尾根道をぐいぐい上ります。途中トラロープ、杭がありますが、トラロープに頼らず上ってください。見晴らしの辻で一息ついたら鳥観の丘、赤岳と緩やかなアップダウンの快適な観察路です。赤岳からの下りはやせ尾根のざらざらの道ですべりやすいので要注意(う回路を探索中)です。赤岳を下りると広い一般道です。人家があり飼い犬がいるので、なるべく静かに速やかに通り抜けてください。竹藪口にピンクのボール状のとてもきれいな花があります。ボタンクサギという名前です。ちょっと足を伸ばして佐保自然の森もパトロールしましょう。植栽された草花の生育や雑草の茂り具合をチェックしてください。

帰り道は新しい道を印に従って行きます。竹藪の辻⑮に出るとほっとします。あとはならやま里山林内のなだらかな道、よく整備された道は歩きやすいです。夏から秋はナツハゼやコナラなどの木の実、赤や白や茶色のキノコが目を楽しませてくれます。一番西の出口から自転車道に出るとまもなくベースキャンプです。

▼ ツルタケダマシ



「山と森林の月間」協賛イベント その1

「ならやまの昆虫観察と自然工作と
バームクーヘンを焼こう!」

日 時 7月27日(土)、10時から15時

場 所: ならやま里山林ベースキャンプ

主 催: 奈良・人と自然の会

協 賛: 奈良県農林部森林整備課

後 援: 奈良市教育委員会

参加者: 児童・園児37名とその保護者21名の総計
58名、学校数では31校が参加されました。

天候は、快晴、暑い1日でした。我々スタッフを
含め90余名の大イベントの実施でした。

・サー開始です



午前中、山ではチ
ョウやバッタ、シ
オカラトンボ、カ
ナブンなどを採集
し、池ではザリガ
ニやドジョウを手
でつかんで楽しく

過ごしました。



・昼はおいしいシソジュース・スイカ・バームクー
ヘン焼き(食・飲)と盛り沢山のメニューでした。・
シソジュースは美味しかったので、子供達幼児がお
かわりの連続でした。



・昼の休み時間には、農園クラブの農園開放で、
収穫作業も体験出来・ピーマン、その他沢山の収
穫でした。



・午後からは、自然工作

竹を使った水鉄砲作りをしました。ほとんどの子



供たちが初めて
ノコギリで竹切
りを体験。

作った水鉄砲
で、ならやま・
ベースキャンプ
の怪人が出現

し、全員で、怪人めがけて水を飛ばし攻撃、子供
たちの興奮が響きわたりました。



・事故もなく充実
した1日が経過しま
した。最後に、ジ
ャンケンで、勝っ
た子供達は、予め
採っていたザニガ

ニを手に入れ、イベントを終了しました。

(参加者の感想) 一部を紹介

保護者

▲夏休みの思い出ができました。ありがとうございます。
こんな素敵な自然が近くにあり、とても
嬉しかったです。

子供達

◇ものすごく楽しいです、特に、チョウなど
を捕まえるのが、楽しいです。

◇トンボがたくさんいた。竹を切るのが 楽
しかった。トンボが綺麗だった。

◇私の知らない昆虫がいて、楽しかった。

(田中 修)

山門水源の森探索& 渡岸寺十一面観音拝観

8月例会 報 告

日 時：8月2日（金）8：00～18：30

行き先：山門水源の森と

渡岸寺十一面観音（滋賀県長浜市）

参加者：28名

幹 事：鈴木、豊島

8月2日（金）心配していた天候にも恵まれ、山門湿原探索と渡岸寺十一面観音立像拝観に出かけました。バスの中では十一面観音に関するクイズを楽しみながら、長浜市高月町にある渡岸寺に着きました。渡岸寺では、ご住職の説明をお聞きし、国宝十一面観音立像を拝観しました。奈良時代、聖武天皇の勅願により建立したと伝えられており、優美なプロポーションに沿って髪と衣が流れるように表現されています。観音堂の中ほどに置かれていて背後からも拝観できます。

渡岸寺庵で早めの昼食をとり、滋賀県長浜市西浅井町にある山門水源の森へ行きました。この森は、炭や薪を作るために利用されていた里山で、起源が約3万年前にさかのぼる山門湿原があります。

日本海側と太平洋側の生物が入り混じって多様な生物が生息しており、「日本の重要湿地500」

「水源の森100選」に選定されています。また滋賀県条例で「山門湿原ミツガシワ等生育保護区」に指定されています。



森では2班に分かれ、ボランティアガイドに案内いただき、溪流沿いを湿原まで約2時間探索しました。四季折々の湿原の魅力をお聞きし、また訪れてみたいと思いました。

（豊島 すみ子）

お二人の新入会々員さんに感想をお寄せいただきました。

8月例会でバスによる日帰り旅行の初参加。高の原を8時に出発し、国宝十一面観音は全国で7体のみで「古いお寺は？」「渡岸寺の像の高さは？」のクイズもあり、和やかな内に長浜市高月町渡岸寺に到着、早速観音堂の中央に鎮座召します本尊を前に、特徴をご住職より拝聴し参拝しました。

光背がない為、後ろに回れば後一面-暴悪大笑相の顔、像高約六尺五寸一木調成で中心に穴を開け安定し、地震にも耐えたそうです。特に両耳朶に大きな鼓胴式耳飾り、腰から下のひねり曲がり具合が優美で女性的でした。

昼食後、山門水源の森に着き、約2時間の探索に出発、色々な植物・動物の説明で「笹ゆり」の保護増殖に鹿が増え食害に困っているとのこと。

この特徴の一つはブナの南限、アカガシの北限。北の雪椿と南の藪椿が同じ場所に自生していることで、感動したのは「ハッコウトンボ」「モリアオガエル」が見れたことです。大変勉強になりました 次回も参加希望致します。（田矢恵造）

八月例会のタイトルに魅せられて参加。バスの中ではクイズ仕立て国宝七体の十一面観音の認識を深め、高月町の観音堂へ向かいました。渡岸寺観音堂では十一面観音本面の左右各々の一面を耳の後ろに大きく彫出す珍しいタイプに注目し、住職の案内で背後からも拝観。

昼から山門水源の森へ移動。ガイドさんに沢道を辿り尾根道を戻るコースで案内いただき、炭窯跡や様々な動植物の現状をお聞きしました。溪流の底が砂地の為、小動物が容易に観察でき、遊歩道から直接サンショウウオまで見つけることができました。思わずガイドさんに交雑種は居ませんかと聞いてしまいましたが、ここまで捨てに来る人はいませんよとの答に納得。（カモシカが減って鹿が増えている）笹百合を鹿から守る為ネットが設置されています。今後、毒草が異常繁殖すること考えられます。鹿・猪対策として一般的には捕獲のプロの育成やジビエ料理の推進も考えられているようですが、本当は狼の導入のほうがいいのかも？川の補修や草刈りも大変ですが、防災面からも里山は人が育てなければダメなのですね。現地の皆様有り難うございました。（辻本正則）

ならやま昆虫観察会

8月7日(水)「ならやま」にて自然教室チーム初めての「昆虫観察会」が行われました。

講師は会員の木村裕さん、菊川年明さん、お二人の昆虫博士です。大人16名、子供2名の参加があり、大いに賑わいました。最初に講師から「みなさん今日は子供になってください、何でもいから捕ってください」と言われました。木村班と菊川班に分かれ、BCを中心に、捕虫網と虫籠を下げて左右に散らばって行きました。みんな昔を思い出し、蝶、トンボ、バッタなど虫籠に入れては喜んでいましたが、「ちょっとこちらへ来てくださ〜い」と木村講師の呼び声が。集まった所は朽ちかけた木の株です。

講師がソーッと株の皮をめくられると、ナガ



ニジゴミムシダマシが静かに動いています。朽ち木などが好きな虫たちです。近くにはゲジゲジ風の幼虫が沢山います。これらの幼虫も親と一緒に、この株をおいしそうに食べています。不用の朽ち木などを分解してくれる、頼もしい虫たちなのです。しばらく眺めた後、株を倒すと、蟻たちが大慌て！それぞれが頭に白い物を載せて右往左往しています。私たちはそれが卵だと思い込んでいましたが、なんとそれは蛹だそうです。大切な蛹を抱えて、降ってわいた災難に、何処へ逃げようかと慌てふためいているのです。

次に木村講師に連れていかれた所は、トイレの裏です。ペットボトル半分くらいの中に、小肉片を入れて土に埋め、落とし穴が仕掛けてあります。雨除けの蓋を取ると強烈な悪臭が付近に漂います！！なんとこれが好物の虫たちが集まっているのです。オオオサムシ、シデムシ、エンマコガネなど死骸を好む虫たちです。これらの虫は「ならやま」で成仏した沢山の動物たちの死骸を処理してくれる有難い虫たちなのです。



自転車道沿いにあるコナラの粘着トラップにベッコウバチが付いていました。この蜂は土に穴を掘って巣を作り、なんと獲物に麻酔をかけて穴に運び込み、生きたままの獲物に卵を産み付けるのです。卵が孵るとその獲物を食べて大きくなるとか！獲物は麻酔がかかったまま食べられるのです・・・。因みに子育ての準備をするのは母親だけだそうです。(父親は何処へ?)

BCに戻りみんなの籠を並べて、講師に同定していただきました。蝶、蛾：ヤマトシジミ・ツマグロヒョウモン・など12種 トンボ：ウスバキトンボ・シオカラトンボなど8種 バッタ：ショウリョウバッタ・ヤブキリなど9種 蜂、虻：ドロバチ・シオヤアブなど6種 甲虫：シロナンテンハナムグリ・マメコガネなど4種 肉だい好きな虫：エンマコガネ・ミイデラゴミムシ(屁を放る)など9種 粘着トラップ：クチキムシ・ゴマフカミキリなど4種 その他に ジョロウグモ・コハンミョウなど全54種。

又、蟬の抜け殻で クマゼミ・アブラゼミ・ニイゼミなどの見分け方も教わりました。

私たちの見えない所で大切な働きをしている、無数の昆虫たちがいることを教えていただき、自然の営みに感動した楽しい観察会でした。

木村さん、菊川さん、大変お世話になりました。

(青木 幸子)



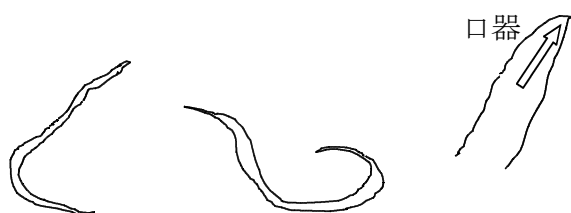
やさしい昆虫講座③⑤ 虫とは書くが、虫でない虫

木村 裕

線虫をご存知でしょうか？ カタカナで書くとセンチュウ、英名ではネマトーダ、何処にでも沢山いますが、あまりにも体が小さいことと、透明であることからお目にかかることはまずありません。例外的に大きなものもありますが、通常は1mm以下、糸屑状の細長い生き物でほとんどが土の中に住んでいます。

最も大きいのは、皆さんのお年ならご存知の回虫（カイチュウ）です。昔は私たちの体内でごく普通に養っていた生き物ですが、トイレ事情の改善から急激に減少し、今では絶滅危惧種？？と言われるくらいに珍しくなっています。可哀想な生き物に援助の手をよろしく。

私たちに最も関係の深いのは、ネコブセンチュウとネグサレセンチュウで、農家のおじさんや園芸愛好家からは嫌われてはいますが。どちらもミミズのような細長い生き物で、土の中に住んでいて、そこに作物が栽培されると、喜んで根に食らい尽き、ときには大家を死に導く不屈者です。針のような尖った口を根に刺し込んで養分を吸っています。成虫も幼虫も同じような形で、手足や羽はまったくありません。セミなら1週間くらいは地上で楽しい生活が送れますが、センチュウは一生地中生活で太陽を拝むことはありません。



キュウリを収穫したときに根に数珠のように丸い瘤が並んでいるのがネコブセンチュウの被害です。ときにはピンポン球くらいの大きさの瘤が連なります。このような状態になると水を吸い上げる細い根がなくなり、株は萎れがちになります。この瘤はセンチュウが出す物質の刺激ででき、キュウリが同じ場所で栽培できない原因の一つともなっています。スイカ、メロン、

ヒョウタンなどのウリ科の植物が好きですが、トマト、ニンジン、ゴボウも好物の一つです。

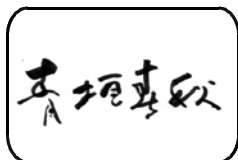
ダイズ、エダマメ、スイトピーなどにも瘤ができますが、これはセンチュウではなくて、



根粒菌の塊で非常に有益なものですので、間違えないようにしてください。また、キャベツやハクサイの根の基部に大きなこぶし状の塊ができることがあります。これは根こぶ病という防除の難しい病気です。ネグサレセンチュウはネコブセンチュウと同じように根に口ばしを刺し込んで養分を吸い取りますが、瘤をこしらえることはありません。被害を受けた根は細い根がなくなったり、腐ったりし、株全体がしだいに衰弱します。ダイコンでは根の表面が傷つき肌の汚い大根となります。ならやまBCで栽培するダイコンではその予防対策として作付け前にマリーゴールドを栽培しています。この植物の根から出る物質がネグサレセンチュウの繁殖を抑える作用があります。さらに、ネコブセンチュウに対してもかなり抑止力があります。我が家では、キュウリの株元にマリーゴールドを栽培しています。

センチュウの大半は土壤中に住み、腐った有機物を主食にする無害な生き物です。

変わり者はマツの樹脂道に住むマツノザイセンチュウです。いわゆるマツ枯れの原因ともなっています。また、イヌの主要な死因となっているフィラリアもセンチュウの仲間と蚊がせっせと運んでいます。

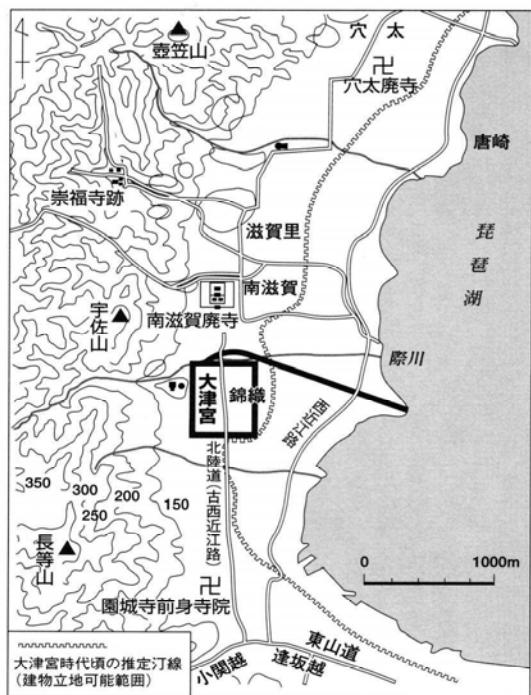


大津京と壬申の乱前夜

藤田 秀憲

663年8月、白村江の戦いで大敗した中大兄皇子は、兵の撤収と百済遺民の受入れ、唐・新羅連合軍の侵攻に備えて防衛体制整備に追われていた。これらを支えていたのが弟の大海人皇子であり、二人の間の調整役が内臣の中臣鎌足であった。

665年(天智4年)、間人(はしひと)皇女が亡くなった。皇女は孝徳天皇の皇后で、同母妹でありながら中大兄皇子のきさきといわれた女性である。ようやく即位の資格を得た中大兄皇子は、667年(天智7年)、飛鳥(後岡本宮)から近江の大津宮(大津市錦織)に遷都し、翌年即位(天智天皇)し、皇后に異母兄古人大兄皇子の娘である倭姫王を立てた。



「図説
青春
出版
社より
拔粋」
坂本勝

出典:林博通他「近江の古代寺院」(真陽社)

天智天皇は「天皇を中心とする中央集権政治」の完成を目指したが、669年(天智8年)10月、その実現のため尽力してきた中臣鎌足が56才で病死した。生前、天智自ら鎌足を見舞い、大海人皇子を使者として、最高の官位である大織冠と大臣の位をさづけ、藤原の氏を授けた。

全国的規模の戸籍庚午年籍(670年)がつくれ、法令の編纂をするなど中央集権体制が進展した。百済貴族たちが母国の滅亡により、多数亡命していたことも、天智天皇の政策実現に好都合だった。

即位の頃から、皇位継承問題に絡んで、天智と大海人の間にすきまが生じ、不穏なわだかまりが生じてきた。

天智天皇には皇子が4人あり、一人(建皇子)は夭折している。残る3人の内、最年長が大友皇子(母は伊賀の国造家、伊賀臣の出)である。

一方、大海人皇子の母は、天智天皇と同じ(皇極・斉明天皇)で血筋からいうと比較にならない。また当時は、天皇に有力な弟がいる場合、(混乱を避けるため)子供より先に弟に皇位を相続させるのが慣例であった。

しかしながら、大友皇子は「懷風藻」によれば、『魁岸奇偉、風範弘深、眼中精耀、顧盼煒燁。唐使劉德高、見而異曰、此皇子、風骨不似世間人。』云々と、ひとかどの才能のある人物であったらしい。

皇位の父子直系相続にこだわった天智天皇は、671年(天智10年)正月2日、大友皇子を太政大臣に任命し、同時に蘇我臣赤兄(あかえ)を左大臣、中臣連金(こがね)を右大臣、蘇我臣果安(はたやす)と巨勢臣人(ひと)と紀臣大人(うし)の3人を御史太夫に任じ、大友皇子を中心とする政府首脳を成立させて、大海人皇子の地位を政治の場から浮き上がらせ、暗に引退を求めた。

大海人はこの屈辱に耐え、再挙の日が来ることを胸に秘め、今まで通り忠実な天智の弟の役割を務めていた。

ところが、局面は天智天皇の病で急変した。8月に病床につき、9月になっても治らず、再起の難しい病であることを自覚した天智は、10月17日、ついに意を決して大海人皇子を病床に招いた。使者に立った蘇我臣安麿は、大海人に使命を伝えた後に「ことばに用心しなさい」とつけくわえた。

<病床に伺候した大海人皇子と天智天皇のやりとり>

天智は、「^{われ}朕、^{やまひはなはだ}疾甚し。後事を以て^{いまし}汝に^つ屬く」云々 大海人は、「再拜^{おが}みて^あまつりたまひて受けずして^{ひつぎ}曰したまはく、『^{おおきさき}請ふ^さ洪業^{おおとも}を奉^{おう}げて、^{のたま}太后に^{やつがれ}付屬^とけまつらん。大友王^{おおみため}をして、諸政を奉宣はしめむ。臣は請願ふ、天皇の奉爲に、出家して修道せむ。』

<日本書紀卷第27>

大海人は天智の病床からすぐに内裏の仏殿にいき、髪をおろし、即日、自家の武器をことごとく官に収めて、天皇に二心のないことを明らかにし、19日わずかの従者を連れて吉野に向かった。その日のうちに飛鳥の嶋の宮に入り、翌日、吉野の宮滝に到着した。

壬申の乱と「日本国」

乙巳の変の昔、古人大兄皇子は僧侶となって吉野に隠遁したが、天智(中大兄皇子)の疑いをとくことが出来ず、謀反の罪で殺された。吉野の大海人皇子は、ひたすら恭順の意を表し、天智の疑いをとくことに努めた。

一方、天智天皇の病状はその後も悪化を続けたため、近江朝廷は吉野の大海人に行動を起こす余裕はなかった。病床の天智は、大友皇子が自分の死後の難局を乗り切ってくれることを願うほかなかった。671年(天智10年)11月23日、天智天皇の願いを受けて、大友皇子と蘇我赤兄以下5人の重臣が、内裏の西殿の織の仏像の前で「6人が心と同じくして『天皇の詔』を奉じ、大友皇子を守ろう」という誓いを立てた。29日には天皇の病床の前で誓いは繰り返された。

12月3日、天智天皇(46才)は大津宮で崩御した。

大友皇子は近江朝廷で政務をとるが、吉野の大海人皇子に対する同情と期待は、宮廷から消えるどころか日ごとに高まった。大友連馬来田、吹負(ふけい)の兄弟は、大海人皇子に将来を託して、近江朝を去って大和へ戻った。

このような状況の中では、大友としても吉野の大海人に対する警戒心を緩めることが出来ない。大津京から大和飛鳥に至る道の要所要所に物見をおいて、警備にあたらせた。

武器を持たない大海人は、近江朝のわずかな行動にも神経を尖らせており、近江朝の警戒態勢を、吉野攻撃の準備かと疑った。

672年(壬申)5月、「天智天皇の山陵を山科に造るため、美濃・尾張の国司に命じて、多数の人夫を徴発し、これに武器を与えている。」という情報が吉野に伝わり、大海人皇子は「坐して死を待つか、立って戦うか」の決断を迫られた。

近江朝廷には大海人への同情者が少なくないし、十市皇女(大友皇子妃)の情報や、近江側の動静を勘案しつつ、計画は綿密に立てられ、6月22日大海人皇子は挙兵した。

大海人は村国連男依ら美濃出身の舎人3名を、直轄地の美濃国湯沐邑(ゆのむら)へ挙兵の使者として送り、湯沐令、美濃の国司と連絡をとり兵を集め、美濃と近江を結ぶ不破道をふさぐことを命じた。

24日、大海人は残りの舎人20余人、女官十余人を引き連れ吉野を立った。きさきの鵜野讃良皇女や草壁皇子、忍壁皇子も軍中にあった。夕刻、大和と伊賀の境に到着した一行は、夜を徹して伊賀国を南から北へ通過して、伊賀北部の積殖(つむえ)の山口に到着した。

此处で、手兵を連れて大津宮から甲賀の山を越えて駆けつけてきた長子の高市皇子が合流した。



(日本の歴史2「古代国家の成立」
岩波文庫より抜粋)

伊勢国に入ると、鈴鹿のあたりで出迎えに駆けつけた国守三宅連岩床や湯沐令にゆきあった。

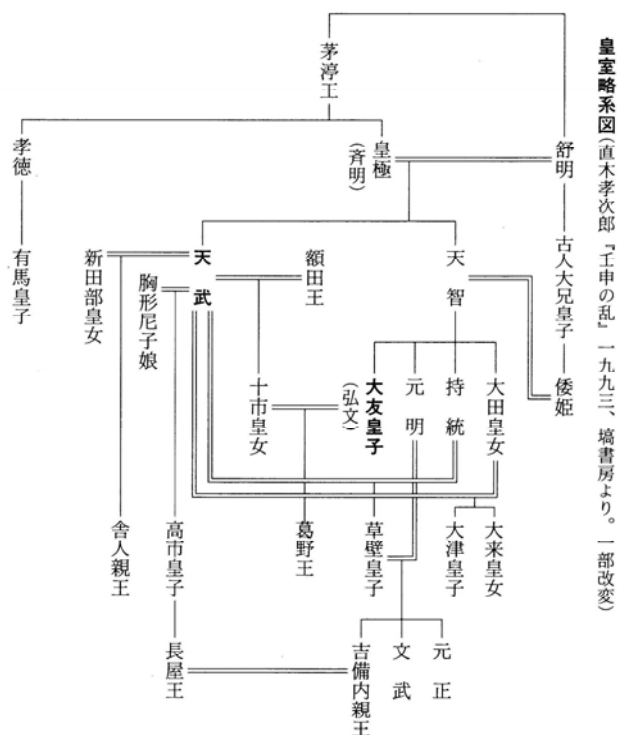
25日には大津京から駆けつけた大津皇子一向に出会い、昼前には伊勢北部の朝明郡に到着した。そこへ村国連男依がかけつけ「予定通り美濃の兵の動員が進行し、不破道を占領した。」と報告した。

大海人は使いを東海・東山両道に送って、兵を集めるという挙兵計画の第二段階を実行に移し、高市皇子を不破に遣わし前線指揮官とし、自分は後方にあつて全軍の統括にあたった。

これに対して近江朝は後手にまわり、大海人皇子の東国入りを24日の夕刻に知り、大きな衝撃を受け「直ちに追撃すべし」の意見具申もあったが、大友はこれを採らず、諸国に募兵の使いを出し態勢を整えてから攻撃する方法をとった。しかし募兵は難航し、以後、形勢は大海人の有利に進んでいくことになる。

近江側の誤算は、大和一国を大海人側に奪われたことである。大友吹負(ふけい)は大海人の東国入りを知って、兵を集め大和の漢氏一族と連絡をとって、6月29日飛鳥古京を急襲した。

9月12日嶋の宮、岡本宮を経て冬に飛鳥浄御原宮に移り、翌 673年2月27日、飛鳥浄御原宮で即位(天武天皇?～686)し、正妃(鵜野讃良皇女)を皇后に立てた。



そして飛鳥浄御原令(689)から大宝律令（701）制定へと至る過程において、国号「日本」は誕生したといわれている。

勤め先の広報活動確立のためという大義名分のおかげで、勤めながらにして活動に参加させてもらえるという厚遇を得ています。公私混同極まりないですが、これからよろしくお願い致します。

鎮魂の魔寺を訪れて

—超昇寺と高丘親王と隆光僧正のこと—

岩本 次郎

歴史文化クラブの7月16日の研修会には、超昇寺跡が含まれていた。現地にはこの地出身の隆光僧正の墓が寂しげに佇んでいたが、かつての面影をここに偲んでおきたいと思う。

超昇寺は、平城天皇の第三子で、叔父嵯峨天皇の皇太子であった高丘親王が、その地位を失い、出家したのち、創建した寺である。興福寺の記録『三会定一記』の貞観4年(862)の条に、「超昇寺本願親王入唐、高丘親王事也」とある。本願とは創建発願者を指す。創建の時期は明確ではないが、正史である『三代実録』には、貞観2年10月15日条に、平城京中の水田55町4反288歩を不退・超昇両寺に施捨するとあって、この時までに創建されていたことがわかる。

その寺地については、地元の研究者、溝辺文和氏や野崎清孝氏の研究によって推定されている(下図参照)。北は松林苑の南築地南端、南は平城京一条北大路、東は歌姫街道、西は歌姫街道から約250mを隔てる南北線までとなる。すなわち約250m(条坊制の2町)四方という広さである。廃太子となった高丘親王がかかる広大な寺域を占め得たのは何故であろうか。その解明には親王の半生を追う必要がある。

親王の廃太子の理由は、弘仁元年(810)、すでに譲位していた父平城上皇が、平安京を離れ、故京平城で朝廷を再開しようとして失敗し、上皇は剃髪、上皇を扇動したとされる藤原浜成とその妹葉子は自害するという、いわゆる藤原葉子の変に連坐したためであった。

その後、弘仁13年(822)頃出家、名を真如と改め、道詮に三論教学を、空海に密教を学び、斉衡2年(855)から7年間、修理東大寺大仏司検校を勤めている。広大な寺地を得たのは、この功によるのと、既に天長元年(824)に没していた平城上皇の菩提を弔う意味があったと思われる。ところが貞観4年(862)僧俗60余人とともに入唐し、長安の法全から密教を受法して遍明と名乗り、865年求法のため広州から海路インドに向かったが、途中、羅越国(マレー半島南端の国)で没したという。享年67歳と伝える。

超昇寺は平安時代を通じて寺格は高かったが、長祿3年(1459)に塔坊自焼し、天正6年(1578)には、井戸若狭守の超昇寺城攻めの際、寺も類焼し衰退した。

ここで、江戸時代、徳川綱吉の時、超昇寺郷二条村から出た江戸護持院大僧正隆光の事績にふれておかねばならない。隆光は慶安2年(1649)の生まれで、6歳で書を能くし、12歳で唐招提寺において剃髪受戒、その後、長谷寺を経て、貞享3年(1686)には將軍家祈祷寺の一つである

筑波山の江戸別院知足院の住職となるのである。

知足院に入った隆光は將軍綱吉に信頼され、元禄元年(1688)には知足院を湯島から江戸城神田橋外に移し、常に側近に侍って祈祷にあたることとなったが、同8年には真言宗新義派では最初の大僧正となり、寺名も護持院となった。

このような隆光の立身は、彼の除災の祈祷の効験を綱吉とその母桂昌院が認めていたことが基本にあり、その教養や人柄にも惹かれ、仏教の師と仰いだことによるとされる。

隆光は悪評高い生類憐みの令を出した影の人物として語られることがあるが、その原因は上述のような綱吉による破格の抜擢が世間の羨望の増幅を招いたためであり、むしろ東大寺大仏殿の再建、唐招提寺の諸堂修理と戒壇再興、法隆寺の江戸本所回向院での出開帳、室生寺諸堂の大修理への尽力等を高く評価したい。その他河内通法寺、紀州根来寺、山城乙訓寺、筑波神社、熱田神宮なども復興しているのである。

宝永6年(1709)、綱吉が死去すると、隆光の勢威は急速に傾いた。晩年は郷里に帰って、かつての超昇寺の南に、法統を継ぐ小規模な堂舎を建て、隠遁生活を続けたが、享保9年(1724)6月7日、76歳で没した。その寺は明治10年頃に取り壊されたと云う。超昇寺跡は、異郷に散った高丘親王と僧位最高位を極めた隆光の鎮魂の地である。



溝辺文和「超昇寺再考」『平城宮跡照映』に加筆

十一の慈悲のお姿蟬しぐれ

鈴木末一

八月例会。北近江・向源寺。国宝十一面観音拝観。
 艶美なお姿。蟬の声は僧侶の声明の響きか。
 省略の利いた一句。俳句は引き算の芸なり。
 とことん引けば巨大な掛け算の世界になる。

鷺草のいま翔つと見せ白ら白らと

鈴木末一

八月例会。「山門水源の森」探訪。
 池端に鷺草が美しい。サギに見立てた写生力。
 旬の花の姿がスーと感じ取れる。

葉隠れのここだに実る青梅かな

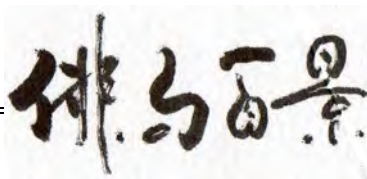
古川祐司

梅林に蘇生の兆し。小さな実が葉に隠れて恥ずかしそう。
 来春には立派な実梅を期待したい。
 「夢うつつ咲いて実れよ梅一枝」か

観音のお顔拝みて夏祭

八木順一

向源寺。別名 どうがんじ 彼岸寺観音。明日は夏祭りとか。
 北国街道が近く。戦乱の多い土地。村人が穴を掘り
 観音様を守ったと言う。伝承に人々の信仰心が胸を打つ。



監修 川井秀夫

遠き日の疎開のかの地さるすべり

西谷範子

時代にもよるが、
 八月になると、あの過酷な戦時を思い起こす。
 作者も母に手を引かれ田舎に逃れたのだろう。
 サルスベリの紅い花が象徴的に心に残る。望郷の詩。

巖頭に赤目五瀑の涼を吸ふ

川井秀夫

七月例会。都会を離れて涼を求める。やや水量に乏しいが、
 流石、関西の名瀑、ひとときの涼感に浸る。

石走る飛沫に揺るる岩煙草

川井秀夫

葉がタバコの葉に似ると言う。可憐なピンクの花が
 人目をさそう。花に免じて一服吸うか。
 ポイ捨ては駄目ですぞ。ワカッチョルヨ。

「山門」の溪の瀬音に青葉影

川井秀夫

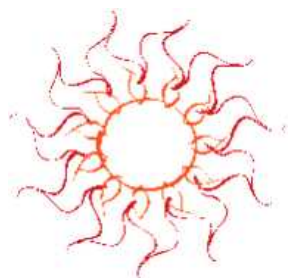
八月例会。「山門水源の森」探訪。
 我々の同志が山の生態系を守る。湿原あり、谷川あり、
 寒温帯の交錯する植生。
 スケールの大きい大自然にちよつぱり圧倒される。

癒しの散歩道

谷川 萬太郎

夏の精「暑き暴れ馬」

分厚い夏が長い帯のように幾重にも光をさえぎり覆い被さってくる
まるで蟻地獄のように抜き差しならぬ熱い身体に纏わりついて離れない
息苦しい胸のうちをあざ笑うかのように冷ややかな目でみる青い空
どうだ参ったかとさぞ言いたげに耐える辛さにそっぽを向く憎いやつ
エンマさんに舌を抜かれた夏風は吐く息も絶え暑さに溶けて消えたのか
突然のゲリラ雷雨の訪問者に驚いた夏の精がはぐれ鳥のように逃げ惑う
むせ返るような陽ざしが嘘のようにその身を隠す時があるとすれば
それは悪びれる様子もなく地球の裏側を渡り歩く季節のいたづらなのか



真夏のスカット

続く日照りに身体を引き裂かれ乾く喉に見るも哀れな土の精が小聲でつぶやく
お願いだからと禿げた頭を垂れながら深々と水の精に心捧げ膝まずいて祈る
せめても情けあるなら痩せ細るか弱い花の命に優しさ溢れる恵みの雨を頼むと
我が物顔の空は遮るものもなくただひたすらに孤独の中で素朴に照り続ける
海よ果てしない向こうに燦々と輝く太陽が目玉焼きのように静かに揺れ浮かぶ
山よ森や林を守るため野垂れ死にしたいと涙こらえながら歯を食いしばる
川よお前は失速したジェット機のように涼という面影も失い夏の産湯に浸かる
鳥は飛び立つ事もさえずる事も歌う事さえ望郷の彼方に忘れてしまったのか



世俗の彼に晒された蟬の抜け殻が真夏の太陽を背に短い人生に幕を下ろす

ならやま
茶 論

竹本 雅昭

「暑い思い出に」

人々：あゝこの太さやったらOK。

先端：アレ！私等はここへポイ、そんなんなしです。

茎：僕は太れずいつも肩身がせまかったけど、こんな身がお役に立つなんてとても光栄だな。

先端：七夕では華やかに飾ってもらうけど、ただ立ち通しで夜明けと共にポイされるわ。

茎：イベントでは夏休みの子達が多勢きて、シューシューと元気に水遊び。ブーンブーンとうなりながら風糸がゴムのよう伸び縮みし見事に回転、ブンブンゴムの腕を上げた得意の顔が目に見えよう。



先端：昔も貴方達の先祖が竹馬となって、人々がやんちゃな頃サーカス気分であって、高い目線で違った世界を見てたようね。それに比べ私等は竹箒でいつも乱暴に使われるわ。

茎：なあ～に、2学期が始まればすぐにゲームに夢中で僕等は相手にされないよ。

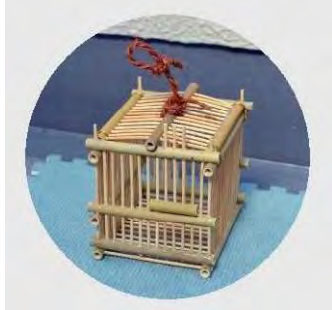
先端：長い間雨や風と戯れてユサユサと空中遊泳してたけど、ずうっと暗い所で文句も言わずに頑張ってくれて有難う。

茎：なあ～に好いってことよ。これから先も色々なお役に立てる様、竹属の繁栄を願ってるよ。

先端：そうね、いつまでも人々と“竹馬の友”でありますように。

人々：OK。この位で十分足りそうだ。

Gallery ならやま



▲「虫籠」(菊川年明)

水彩画 (山本妙子) 「野菜達の集まり」

水彩画 (山本妙子) 「パンと野菜など」

イラスト (羽尻 嵩) 「コスモス」

工作 (菊川年明) 「虫籠」

クラフト (田中克彦) 「ネズミの親子」



▲「野菜達の集まり」(山本妙子)

◀「パンと野菜など」(山本妙子)



▼「ネズミの親子」
(田中克彦)



▼「コスモス」(羽尻 嵩)



ならやまの歌

作詞 谷川萬太郎
作曲 一村 好郎



1. おもえほ ちかしき ならやま に
2. ゆめみた いとしき ふるさと に

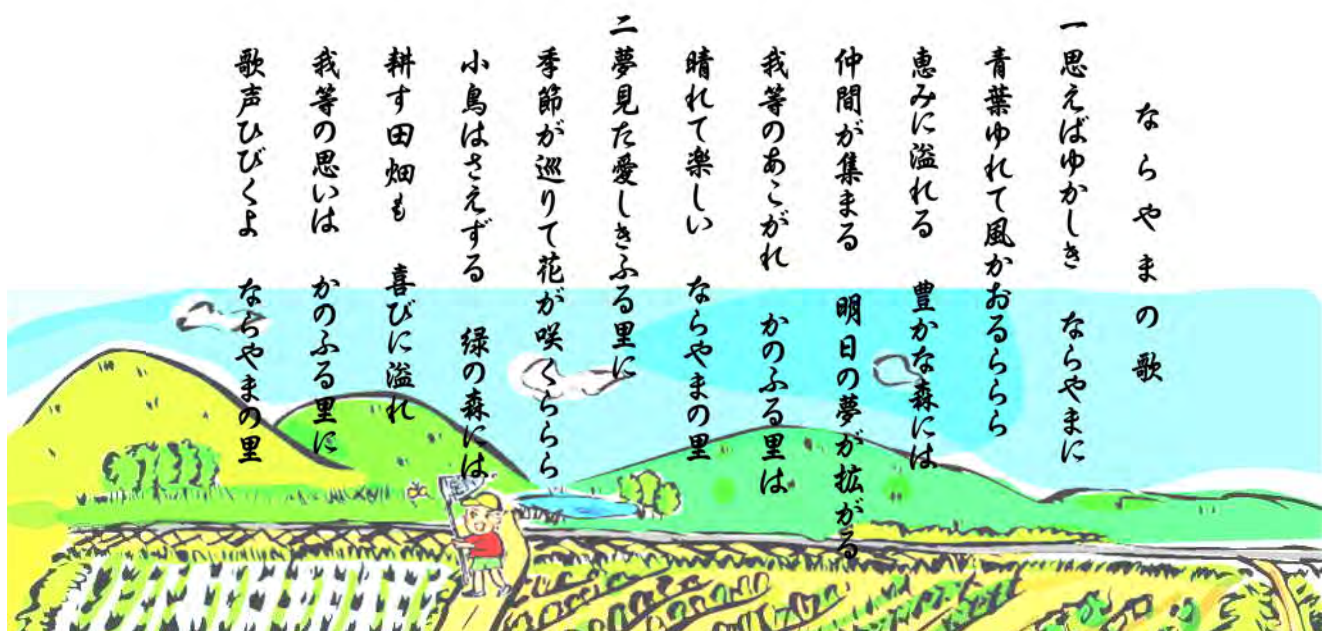
あふ - ほ ゆれ - て おせあふ るらうら
ませつあ れぐりて ほなかいさ くらうら

めぐみにあふ れ - る 中たかな もりにほ
ことりはるえ り - る みどりの もりにほ

はかまがみつ ま - る あふのゆめが ひろびる
たがやすたは た - も よろこびに あふ - れ

われらの あまがれ れのふるさと と - ほ
われらの あもいほ かのふるさと と - に

ほれて たのしい ならやまの さ と -
歌いよ ひびくよ ならやまの さ と -



ならやま景観整備

活動予定日

9 月	5 (木) 26 (木)	12 (木)	19 (木)
10 月	3 (木) 24 (木)	10 (木) 31 (木)	17 (木)

- ◆ 場 所：奈良市奈良阪町・佐紀町の県有林
[ならやま会館前道路（ならやま大通り）の
南側に広がる里山林地]
- ◆ 集 合：現地ベースキャンプ地・午前9時
- ◆ 終了予定：午後3時

アクセス

- ① JR平城山駅下車、東口から南へ徒歩10分
 - ② 近鉄奈良駅・バス13番乗り場
8：27発、高の原行き（平日）
 - ③ 近鉄高の原駅・バス1番乗り場
8：38発JR奈良駅行き（平日）
- ②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」
で下車 徒歩7分



カップ



- ◆ 携行品など：弁当、飲み物、
軍手（作業用具は現地で用意）
- ◆ 昼食時に冷たい飲み物を用意しますので、
コップをご持参ください。
- ◆ 連絡先：木村 裕

9月5日

- ＜里山Gr＞第5地区 通路整備および竹林周辺整備
ならやま里山林&自然の森
ナラガレ対策の実施
- ＜農園Gr＞玉葱の苗床づくり、
大蒜植え付け畑準備
- ＜景観Gr＞BC.、彩の道草刈り
佐保自然の森みずやり
駐車場草刈り
日陰植物園草取りと移植
アジサイ移植
水質調査、ならやま池生物調査



9月12日

- ＜里山Gr＞第5地区 通路整備および竹林周辺整備
ならやま里山林&自然の森
ナラガレ対策の実施
- ＜農園Gr＞大根種蒔き（YRくらま・1畝）
大根種蒔き（紅心&ワサビ風味・1畝）
玉葱・蕪等の種蒔き→東側畑
- ＜景観Gr＞ならやま入口付近草刈り
佐保の森水やり
皇帝ダリア草取り、山野草園整地
池の整備

9月19日

- ＜里山Gr＞第5地区通路整備および竹林周辺整備
第2皆伐実験地 薪小屋作り・薪作り
ならやま里山林&自然の森
ナラガレ対策の実施
- ＜農園Gr＞大根種蒔き（YRくらま・1畝）
大蒜の植え付け
- ＜景観Gr＞ならやま会館前広場草刈り
ジャーマンアイリス園草取り
隼人瓜施肥
ならやま池生物調査

9月26日

- ＜里山Gr＞第5地区通路整備および竹林周辺整備
第2皆伐実験地 薪小屋作り・薪作り
ならやま里山林&自然の森
ナラガレ対策の実施
- ＜農園Gr＞大根種蒔き（漬け物・1畝）
大根種蒔き（YRくらま・1畝）
玉葱植え付け畝の整備
- ＜景観Gr＞彩の道草刈り
アジサイ移植と施肥、コスモス施肥
池の整備



行事案内 part 1

9月 例会

馬見丘陵公園の植物観察と散策



馬見丘陵公園をマイフィールドとして活動されている田代 貢さんの案内で初秋の植物を観察します。まだまだ暑い日が続くと思われまますので、暑さ対策はしっかりとご用意ください。

多数の方々のご参加をお待ちしています。

実施要領

1. 日時：9月9日（月）10時～15時予定

2. 場所：馬見丘陵公園

（奈良県北葛城郡河合町左味田2202）

（TEL：0745 56 - 3851）

3. 内容：①田代 貢氏による植物・見所ガイド
②自然遊び

4. 持参するもの

昼食、飲み物、ルーペ、ビニール袋（収納用）、
筆記用具、あれば双眼鏡・図鑑

5. 集合場所・時間

馬見丘陵公園公園館前・AM10時

6. アクセス

電車で来られる場合

近鉄大阪線 五位堂駅より9：23発の奈良
交通バス（4番のりば33系統 馬見丘陵
公園行、約16分・270円）終点下車。

車で来られる場合

公園館裏中央駐車場（無料）を利用してくだ
さい。

7. 連絡先

自然教室チーム 倉田
高本

歴文クラブ9月研修会

「壬申の乱をめぐる」（続報）

「壬申の乱」は、吉野に隠遁していた大海人皇子が、天智天皇薨去による殯りの空位の間に、伊勢・伊賀・尾張・美濃の豪族との間に万全の準備を整え、672年6月挙兵して始まります。いち早く「鈴鹿山道」と「不破道」を閉塞した大海人皇子方は、近江朝廷が徴発した尾張の農民兵をも手中に収めて、これを近江路、伊賀、大和の各方面に配置して優位に立ちます。

吉備や筑紫などの西国に派遣した国宰（くにのみこともち）や在地の首長の支持を失っていた大友皇子は、劣る兵力で劣勢に立ち瀬田川の最終決戦に敗れ、山前（やまざき）の地で自刎して終わります。

今回の研修会は、勝敗を分けた関ヶ原町「不破の関」を中心に現地の「関ヶ原史蹟ガイド」の案内で史蹟を巡りますが、車中では、杉本登さん、森英雄さんを講師にこの大乱の経緯と背景、国際情勢、人間模様、秘話などを話題にしながら進めてまいります。

参加申込はすでに定員に達しておりますので、締め切らせていただきました。また参加費は、万一に備えて旅行保険に加入いたしますので、3350円となります。何卒了承下さいますようお願い申し上げます。

（壬申の乱 進行図）





行事案内 part 2

10月例会 泊研修旅行のご案内

10月28日(月)～29日(火) 福井県の研修旅行
“秋 越前のすばらしい紅葉を 窓辺に見ての旅!”

第一日目(10月28日)

戦国大名「一乗谷朝倉氏遺跡 復元町並み」見学
・池田町 町おこし 「農事法人 コムニタ」訪問
全国でも珍しい仕組みによる町おこし事業
・宿泊 池田町 「溪流温泉 冠荘(かんむり荘)」
景観を楽しみゆっくりと寛ぎください。

第二日目(10月29日)

- ・「平泉寺(へいせんじ)」苔むしたスギ木立の中に往時の伽藍へ心を巡らせます。
 - ・「日本一の恐竜博物館」大型肉食恐竜の足跡や骨格展示は圧巻です。発掘現場が見られるかも?
 - ・「越前竹人形の里」で昼食
 - ・「中池見湿地」ラムサール条約に登録されている二ホンの重要湿地・3,000種の動植物の生息地で特に屈指のトンボ生息地(71種)です。
 - ・集合; 28日7:45 近鉄高の原駅前(出発8:00)
 - ・帰着予定; 29日 18:00頃 同駅前
 - ・予定費用; 23,000円(昼食1回を含む)
 - ・定員; 40名(先着順・一次締め9月20日)
 - ・申込み先; 寺田 孝(tktera@m5.kcn.ne.jp)
又は「申込み書」記入(「ならやま」に置きます。)
- 多くの方のご参加をお待ちしています。

担当: 寺田 孝、八木順一、奥野美佐子、阿部和生



【問1】写真の鬼瓦は、ある寺院の本堂(貴重な奈良時代・創建当初の建造物で国宝に指定)のものです。

この寺院には、下の写真の鐘楼があり、中の梵鐘は重要文化財で天平時代の貴重なものです。又ある法師の鬼退治で名高いものです。



寺院名を山号を含めた正式名でお答えください。



【問2】このような五重塔がある寺院名について、山号も含めた正式名でお答えください。

応募締切
: 9月2日

応募方法: メールorファックス

⑧ 8～10月の行事予定の確認、その他

編輯子一ム・代表 鈴木末一